

孤立孤独支援に求められる ソーシャルワーク実践

○シンポジスト

- ・生活困窮の観点-女性支援の実態から 吉中 季子 氏（神奈川県立保健福祉大学）
- ・ケアラー・ヤングケアラーの観点から 中村 健治 氏（北海道社会福祉協議会）
- ・不登校などの教育の観点から 野村 俊幸 氏（「不登校・発達障害を考える
保護者会函館アカシヤ/道南ひきこもり家族交流会あさがお」事務局）
- ・ソーシャルワーク実践の観点から 高石 豪 氏（日本ソーシャルワーカー協会）

○コーディネーター 松岡 是伸（北星学園大学・本学会研究担当理事）

日 時：2024年3月9日（土） 研究報告14：50～17：30

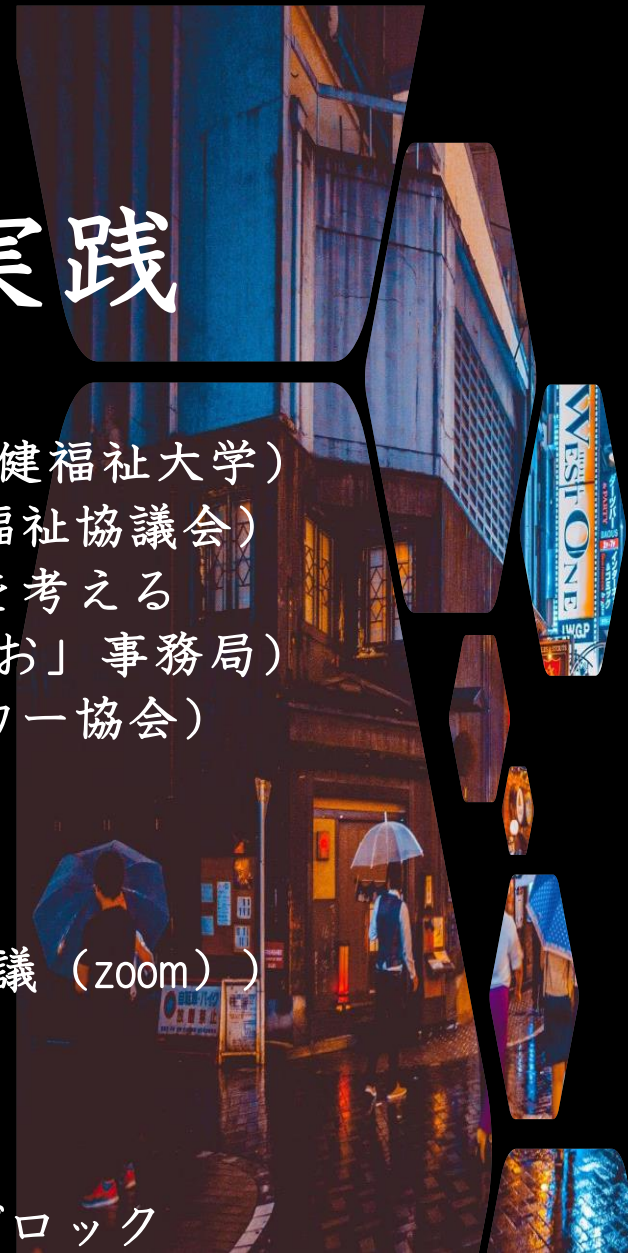
場 所：ハイフレックス開催（対面会場：調整中 / テレビオンライン会議（zoom））

・対面会場：北星学園大学C館5階（北海道札幌市厚別区大谷地西2-3-1）

・非対面：テレビオンライン会議（zoom）

参加費：無料

主催：北海道社会福祉学会・日本社会福祉学会北海道地域ブロック



2023年度 北海道社会福祉学会（日本社会福祉学会北海道地域ブロック）
研究大会（研究大会・シンポジウム）

「孤立孤独支援に求められるソーシャルワーク実践」

趣旨：地域社会において人々のつながりが希薄化し、新型コロナウイルスの蔓延と感染症対策によって人々の関係性は分断されていった。2021年の孤独孤立に対する全国実態調査では、孤独感が何らかのかたちで「ある」が全体の4割ほどみられた。また、OECDの調査によれば、孤独を感じる子どもは他国と比較も多い。これらのことからすれば現代日本の孤独孤立問題は深刻化している。そこで政府は、孤独・孤立対策に踏み切り、孤独孤立に対する相談支援、実態調査、ソーシャルメディアを活動した支援等に進め、官民一体となった取り組みを実施している。このような取り組みを推進する中で、どのように孤独孤立に対してどのような支援のあり方が求められるであろうか。近年、相談支援のかたちとして本人を中心とした伴走する相談支援も踏まえつつ、孤独孤立支援で求められるソーシャルワークについて考えていきたい。そのためには日々の実践であるソーシャルワーク実践をふりかえり、問い直すことが重要となる。そのうえで孤独孤立支援に求められるソーシャルワークについて学的に究明することが目的である。

●参加手続き

ご参加ご希望の方は、下記のフォーム、若しくはQRコードより事前にお申し込みください。

<https://forms.gle/Y1euUZwAud5FKxJp8>

申し込み期限：2024年3月7日（木）24:00



●自由研究発表申込

自由研究発表への申込は、下記フォーム・QRコードより事前にお申し込みください。

発表申込期限：2024年2月29日（木）12:00

<https://forms.gle/14rhhRaBPhJebLiV6>

詳細は大会案内をご覧ください

（本学会HP：<https://hssw.jp/>）



時間	プログラム
13:00-14:30	研究報告（ハイブリット） 個別自由発表（1演題 30分（発表20分+質疑10分））
14:30-14:50	休憩※大学食堂、生協（売店）は、営業していません。
14:50-15:00	総合司会：近藤 尚也（本学会事務局長・北海道医療大学） 研究大会開催 挨拶 本学会 会長 大友 芳恵（藤女子大学・北海道医療大学名誉教授）
15:00-17:30	研究大会シンポジウム（ハイブリット） 「孤立孤独支援に求められるソーシャルワーク実践」 ○シンポジスト ・生活困窮の観点—女性支援の実態から 吉中 季子 氏（神奈川県立保健福祉大学） ・ケアラー・ヤングケアラーの観点から 中村 健治 氏（北海道社会福祉協議会） ・不登校などの教育の観点から 野村 俊幸 氏（「不登校・発達障害を考える保護者会 函館アカシヤ/道南ひきこもり家族交流会あさがお」 事務局） ・ソーシャルワーク実践の観点から 高石 豪 氏（日本ソーシャルワーカー協会） ○コーディネーター ・松岡 是伸（北星学園大学・本学会研究担当理事） シンポジウム趣旨説明（10分） シンポジスト報告（1報告20分：80分 （休憩10分） ディスカッション・質疑応答（50分）
17:30	研究大会 閉会挨拶 中村 直樹（本学会研究担当理事・北海道教育大学）